

平成28年12月19日

北栄町議会

議長 井上 信一郎 様

北栄町議会教育民生常任委員会

委員長 斉尾 智弘

教育民生常任委員会調査報告書

本委員会は、次の事件について先進地の調査を終了したので、会議規則第77条の規定により調査結果を次のとおり報告します。

記

1 調査事件

(1) 地域包括ケアシステムの推進について

調査地 岡山県奈義町 生活支援サポーターみつばち
兵庫県たつの市役所

(2) 公立美術館の設置と運営について

調査地 岡山県奈義町 奈義町現代美術館

(3) 地域公共交通施策について

調査地 京都府京丹后市役所
兵庫県豊岡市役所

2 調査期間

平成28年10月6日(木)・7日(金)の2日間

3 調査結果

(1) 奈義生活支援サポーターみつばち

約50人のボランティア組織。平成22年3月介護保険制度だけでは支えきれないと考えた職員が、クリニックの医師に相談し、立ち上げた。職員3人が生活支援コーディネーターを務め、要支援者とサポーターのコーディネートをしている。1時間500円の利用料は、サポーターへ支払われ、行政支援の8万円で運営。

(2) たつの市

予防から介護の相談まで、認知症になっても安心して暮らせる支援体制が構築されている。医療や介護の支援を受けるために自分の意志を伝えるノートや、困ったときの相談先について記入しておく便利帳。サポーター養成（キッズサポーター930人）、認知症カフェ9箇所、はいかい高齢者見守りネットワーク、リハビリをしながら働く場として就労支援につながるカフェなどが充実している。

(3) 奈義現代美術館

3人の芸術家の作品を美術館と一体化させ五感を刺激する、空間美術館である。体験型美術館であり、各分野のアーティストと連携協力した企画やコンサートを毎月実施している。図書館も併設し、県内外の入館者が増えている。

(4) 京丹後市

行政改革を進める中でバスの維持補助額が突出していたため、バスの利用促進施策を実施した。地域交通会議、アンケート調査などを経て200円バスを導入した。各市街地の幹線を既存のバス事業者が運行し支線を市営バスやコミュニティバスで接続した。実施まえは15万人だった利用者が2年目には30万人を突破した。

(5) 豊岡市

路線バスの廃止問題を受けて「助けて欲しい。地元でできる事は、地元です。」との申し出があり、検討をした。公用車を無償貸与し、地元で運営者を確保した。定時定路線運行(週3日)とし、それ以外は予約制とした。

4 所感

(1) 奈義町

高齢社会になり、サポーターの養成は喫緊の課題である。協力的な医師の下、行政、社協が連携した先進的取り組みである。

美術館のコンセプトが明確になっていた。周りの環境とマッチした施設は本町としてもよい手本だ。

(2) たつの市

徘徊高齢者の見守りとしての「ピカット」「シューズステッカー」は本町

でも導入すべき。見守り体制の整備人材育成、サービスの充実は本町でも必要である。

(3) 京丹後市

200円バスは幹線を運行するもので本町でも、検討出来る。問題は幹線に出るまでの移動手段の確保である。検討の価値あり。

(4) 豊岡市

運行は自主的に運営するから地域の移動手段を残してくれという人々と、なんとかしようという職員がいたから実現した。本町でもそういう職員はいるだろう。しかしニーズや引き受けてはあるだろうか。

視察報告

齊尾智弘



奈義町 生活支援 サポーター - みっばち

高齢者の支援に困った、介護職員の1人が
クリニックの医師に相談し、地域ケア会議で提案した。
その結果、まわりの職員もまきこみ、自分達で出来る
事をしようと始めた、先進的な事例である。

2010年は準備期間とし、高齢者のニーズ調査
為、アンケート、聞きこみを開始した。

生活支援サポーターの育成に着手し養成講座を
開催し、3回の講座で52名が修了証書
を受けた。「みっばち」は、
①みんなで、②ながて、
③ほちり、④いきを守る。の4つの言葉の頭文字をとった
もの。

今後はサポーターのモチベーションを、たもつため
のフォローアップが大切になる。

そのため、定期的な勉強会、活動報告会
AEU勉強会などを開催した。

サポーターのコーディネートも重要になる。サービスの
受け手から経費500円を受け取りサポーターへ渡し
いる。

議長	局長	局長補佐	係長	副議長	主査

現代美術館

町営として平成6年にオープン
3組のアーティストの作品が展示され美術館と一体化
させている。常設の作品はギャラリーに釘で打ち込んで
音楽会、ダンスや観劇会などをアーティスト作品を背景と
して開催。交通アクセスがわるくても世界に発信できる
人はくる。10年補填張り抜いた。

認知症施策の先進地視察 倉尾智弘

たつの市の平成17年10月1市3町が合併した。

高齢化率 28.1%

国の推計で認知症は高齢者人口の約15% (7人に1人)
たつの市の場合平成37年には約4554人の方が認知症と
予想した。これに危機感を覚え対策に取り組む。

主な施策

赤とんぼ連携ノート (H27年1205冊西配付。年間1000冊西配予定)

・ 大切な事をメモしておく

認知症生活へんり帳

いきいき百歳体操

認知症出前講座

認知症サポーター養成

キッズサポーター養成

認知症サポーターフォローアップ講座

認知症カフェ (9カ所) など

はいかい高齢者等見守りSOSネットワーク

認知症初期集中支援チーム

BPSD連携票作成

予防から備え、見守り、気づき、医療の相談
介護の相談まで 認知症になっても安心して
自分らしく暮らせる支援体制が構築されている。
本町でも取り入れる施策は多いと思う。

京丹後市

倉尾智弘

上限 200円の路線バス

路線バスの利用者が減少
 バス事業者への維持補助額が増加(年間8500万円)
 平成16年に新市長が誕生し行政改革を推進
 同い補助をするなら、乗っただけのバスに補助
 しようという考え方。

路線バスを地域資源の一つとしてとらえ、
 有効に活用し、まちづくりを進めようとした。

平成17年「京丹後市地域交通会議」を設立。

料金について市民へのアンケート調査を実施
 (ターゲットとなる高校生や高齢者を対象)

会議メンバーで現地調査を行った。

(利用者の声や乗降調査)

バス路線を一つ一つ全便チェック

バス停、待合所の増設、名称変更

バス車内での回数券販売、増便パターンダイヤル化
 ノズル型ICバスの導入を行った。

全てのバス停が掲載されている時刻表を市で作成し、

全戸配布した。

実施前の年間15万人だったバスの利用者が
 2年目には、30万人を突破した。

高齢化社会の到来にあたり、路線バスの
 充実に向けた取り組みには、本町でも十分に
 参考になると考える

豊岡市議会 視察 斎尾智弘

地域公共交通「4クタク」について

「4クタク」とは地域の乗り合いタクシーをちぎめたもの。

- 市営バスの利用が1人便に満たないため、H22年度末で路線廃止を地元に通文口。
- 出石町奥山地区から「助けてほしい。出来ることは地元でやる。」との申し入れがあった。それを受けて、地域のための公共交通を地域と市で検討。
- 実際に可能かどうか試験運行を行う。5ヶ月間の検証を経て平成23年4月より本格運行。

公用車を無償で地域の運行組織へ貸与し、運転手を地域で確保していただく。又運行管理者が重要になるが、その事務員も地域で確保
 タクシーは地域で決定(週3日運行)し定時定路線運行とし予約制とする。運賃は100円〜200円としている。
 運転手の報酬は3,000円/日 事務委託料20,000円/月などを支払う。

バス路線廃止による交通弱者を守るため地域が立ち上がったケースである。運転のできない高齢者がいる。える地域においてバス業者ではない営利を目的としない住民の手による路線維持の新しい方法だと思ふ。住民のためにお手伝いしようと熱く取り組んだ1人の職員と地域住民の熱い思いが法律の壁をのりこえさせて実現した取り組みである。

北栄町議会議長 井上 信一郎 様

北栄町議会 教育民生常任委員会委員 町田 貴子

平成28年北栄町議会 委員会行政調査報告書 10/19

1	日 時	平成28年10月6日～7日 1泊2日	
2	調 査 地	岡山県奈義町、兵庫県たつの市、京都府京丹後市、兵庫県豊岡市	
3	調 査 内 容	(内 容)	(場 所)
		<p>(1) 地域包括ケアシステムの推進について</p> <p>ア 住民や事業所を巻き込んだ地域の 支え合い.</p> <p>イ 認知症の人が生活しやすくなるため の地域づくり</p> <p>(2) 公立美術館の設置と運営について</p> <p>(3) 地域公共交通施策について</p> <p>ア 公共交通対策プロジェクトチーム の設置と運賃上限200円バスの取 り組み</p> <p>イ 地域の運営協議会が運行する乗 り合いタクシー</p>	<p>奈義ファミリー クリニック</p> <p>たつの市役所</p> <p>奈義現代美術館</p> <p>京丹後市役所</p> <p>豊岡市役所市</p>
4	概要及び 調査結果	<p>(1) 地域包括ケアシステムの推進について</p> <p>ア・・・ 奈義生活支援サポーター「みつばち」は約50人のボランティア組織で、クリニック、薬局、グループホームなどを巻き込んで活動している(1時間500円)。町の補助(年8万)は主に通信費に使用。生活支援コーディネーターは3人で仕事を兼務し、交代で電話受付している。～このような大変な事業は我が町の導入は難しいと感じた。実際、高齢化等の問題もあり「組織の立て直しを考えている」とのことであった。</p> <p>イ・・・たつの市の認知症施策はあらゆる方向からの支援方法を行っている。</p> <p>1・・・「予防、備え」として「赤とんぼ連携ノート」「認知症生活便利帳」を配布。</p> <p>2 見守り、支え合いとして・・・講座、サポーター養成(キッズサポーター930人) 認知症カフェ(5ヶ所)など集いの場所作り、はいかいSOSネットワーク。</p>	

		<p>3・・・気づきとして集中支援チームの訪問。適切な治療に繋げ自立生活のサポートを行う。</p> <p>など一連の体制がすべて整っているすばらしい施策だと感じました。北栄町でも認知症に限らず、あらゆる困りごとに対応できる支援体制作りが必要です。</p> <p>(2) 奈義町現代美術館では今まで体験したことのない不思議な美術館でした。建築家とアーティストの共同制作されたという空間的作品は見る人の感性で感じるものなので行ってみないとわからない。興味深い美術館でした。</p> <p>(3) 地域公共交通施策について</p> <p>ア 京丹後市 200 円バスの導入は行政改革を進める中で他の助成と比較してバスの維持補助額が突出していたため、多くの人に乗ってもらうことで「バスの運行」ではなく「乗車する人」に対する補助という発想に転換し、バスの利用促進施策を実施した。「地域交通会議」「公共交通ネットワーク実現会議」「アンケート調査」などを経て関係機関合意形成し、丹後地域公共交通ブランド化を目指し、利用者満足度の高い体系となっている。公共交通の活性化により2年目には利用者が2倍以上になった。この取り組みは高齢化の進む北栄町でも早急に検討してみる必要があると感じました。</p> <p>イ 豊岡市、地域公共交通「チクタク」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ：豊岡市が事業主体 ：市公用車を無償で貸与 ：地域の運行組織（運行管理者、事務員、ボランティア運転手を地域で確保）による ：地区内フリー降車、運賃 100 円～200 円 ：定時定路線運行（予約制） <p>である。</p> <p>良い取り組みだと思うが豊岡市は人口 8 万 4 千人、世帯数 3 万 2 千と北栄町とは規模が異なり導入は無理で参考事例とさせていただきます。</p>
5	所 感	<p>二日間で 5 ヶ所とかなり強行な視察でしたがそれぞれ先進的な取り組みをされ大変参考になりました。中でも<u>たつの市</u>の認知症の人の見守り体制の整備、人材育成、制度、サービスの充実。<u>京丹後市</u>の 200 円バスの導入はすぐにでも北栄町においても検討できることとして今後取り組みたいと感じました。</p>

北栄町議会議長 井上 信一郎 様

北栄町議会 教育民生常任委員会委員 井上 信一郎

平成28年北栄町議会 委員会行政調査報告書

1	日 時	平成28年10月6日～7日 1泊2日	
2	調 査 地	岡山県奈義町、兵庫県たつの市、京都府京丹後市、兵庫県豊岡市	
3	調 査 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1) 地域包括ケアシステムの推進について ア 住民や事業所を巻き込んだ地域の支え合い. イ 認知症の人が生活しやすくなるための地域づくり (2) 公立美術館の設置と運営について (3) 地域公共交通施策について ア 公共交通対策プロジェクトチームの設置と運賃上限200円バスの取り組み イ 地域の運営協議会が運行する乗り合いタクシー	奈義ファミリークリニック たつの市役所 奈義現代美術館 京丹後市役所 豊岡市役所
4	概要及び調査結果	(1) ア 奈義ファミリークリニック 町営医療機関を外部委託した際、家庭医の名医が着任したことから、平成22年3月介護保険制度だけでは支えきれないと考え、生活支援サポーター「みつばち」を開設。 職員3名は要支援者とサポーターのコーディネートをしている。サポーターを養成するための講座を開くが、活動の手引き書が有料である。1時間500円の利用料と行政支援年間8万円での運営は厳しく、社協の生活支援コーディネーターと連携協力して取り組んでいる。 イ 医療や介護の支援を受けるために自分の意志を伝えるノートや、認知症予防や困ったときの相談先について知っておくための便利帳（ホームページからダウンロード可）を配布。 誰もが気軽に参加できる場、認知症の人やその家族が安心して過ごせる居場所、同じ悩みを持った人との交流の場として認知症カフェが9ヶ所ある。若年性認知症の人やそ	

		<p>の家族が集うカフェはリハビリをしながら働く場として就労支援につながっている。</p> <p>(2) 奈義現代美術館 3人の芸術家の作品を半永久的に展示した五感を刺激する空間美術館である。そこに行かなくては味わえない、楽しめない、体験型美術館であり、各分野のアーティストとコラボした企画展やコンサートを毎月実施している。町立図書館も併設し、町民はもとより県内外からの入館者が増えている。</p> <p>(3) ア 京丹後市 6町が合併した市にあつて、中心市街地は海浜部と山間部の数カ所に点在しており、各市街地の幹線を民間と市営バスが運行し、支線を市営マイクロバスやデマンドバスで接続。200円バスを導入した結果、導入前より利用が倍増したが、経費的には導入前と同程度である。多くは高校生であり、昼間の利用率アップが課題である。</p> <p>イ 豊岡市 路線バスの大幅休止問題を受け、公共交通を将来も必ず守っていくとの方針から、バスの限界を超えた地域への対応として旅客有償運送「チクタク」を開始。4地区で週3日、1日3～6便、100～200円、定時・定路線で運行。 公用車を無償貸与し、地域で運営者を確保、年間運賃収入の5～10倍の運行経費を助成。 利用者には運転手は顔見知りであり、安心して乗れると好評な反面、高齢化により運転手のなり手不足が懸念される。</p>
5	所 感	<p>(1) ア 医師の理解と協力が不可欠であり、現状では行政と社協が連携して、各種ボランティア団体からサポーターを養成するため支援してはと考える。 イ 徘徊高齢者の見守りとして、「ピカッとシューズステッカー」は簡便であり、本町でも導入すべき。情報は町と警察で共有するが、徘徊は町内に留まらないこともあり、定住自立圏域でネットワークを構築することや認知症初期集中支援チームを圏域で立ち上げ、人材育成や相談支援に当たる必要性を感じた。</p> <p>(2) コンセプトを明確にさせることが重要。周りの環境とマッチした施設としては市街地型ではない。自然豊かな地北栄町は好適地と感じた。</p> <p>(3) ア 200円バスは幹線を中心としたものであり、本町</p>

		<p>の乗り合いタクシーも同様である。問題は幹線に出るまでの移動手段の確保であり、支線の定時運行（土日祝は事前予約）より、タクシー利用助成券の方が利便性は高い。利用者負担の軽減と利用地域の拡大を、今後検討する必要がある。</p> <p>イ 地域の個人や団体が運行組織を立ち上げれば有償運送は可能である。本町でそこまでのニーズや引き受け手があるかは疑問である。</p>
--	--	---

提出締切 平成28年10月26日